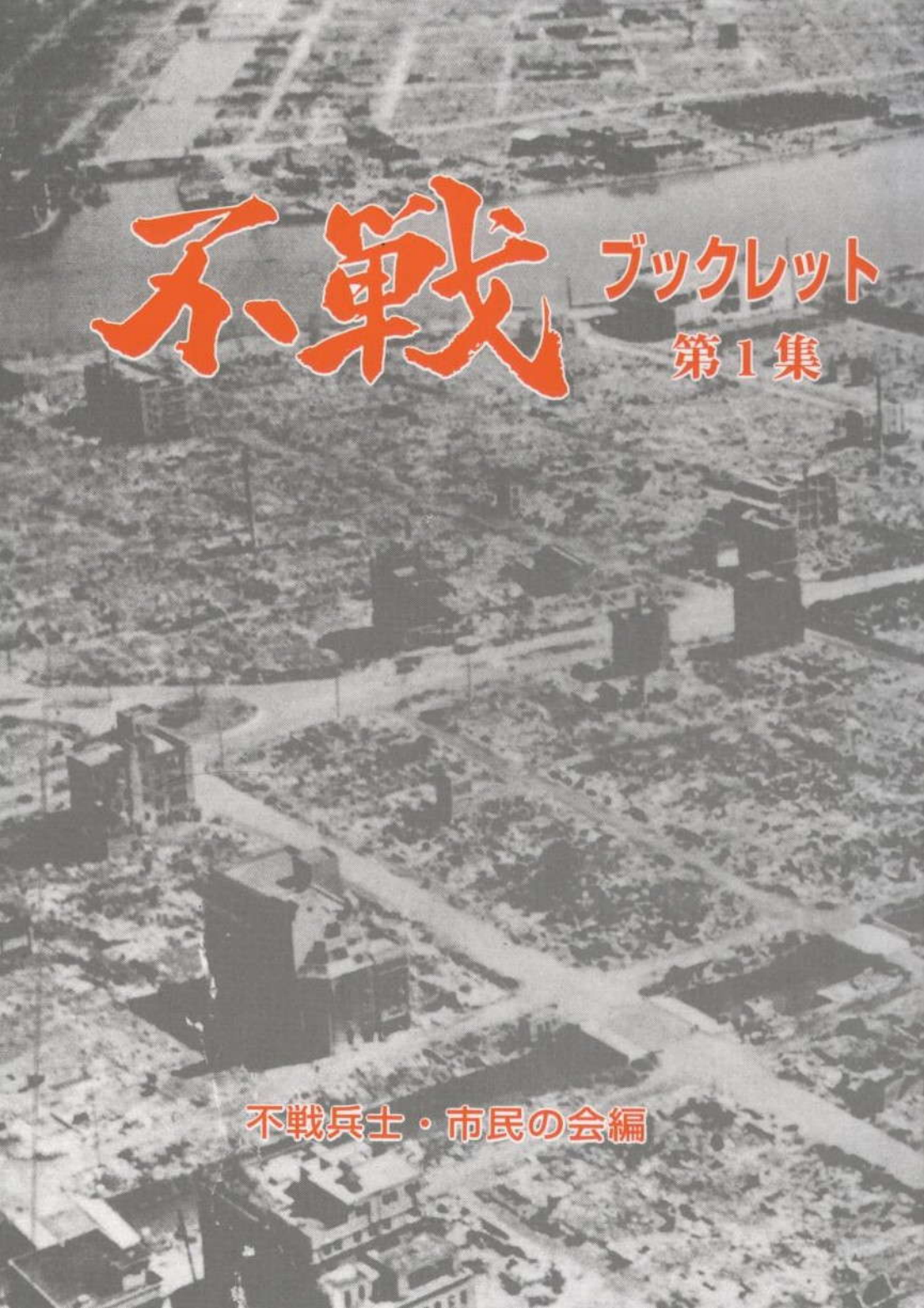

不戦 ブックレット 第1集

不戦兵士・市民の会編

序によせて

「不戦文庫」第一集発刊に当たり …… 大石嗣郎 7

不戦文庫

文字どおりの「餓島」 …… 湊良蔵 8
—技術将校の見た戦争の実相—
生と死のはざまで …… 埜口幸次郎 18
—東京ダモイにだまされてシベリアへ—
戦争する軍隊は「人面獣心」 …… 安藤晧美 26
—中国北部に転戦して深く詫びる私です—
中学生諸君……これが戦争だ！ …… 小島清文 49
大喪の日、元兵士が語る …… 武田逸英 70
—痛恨の日々—
戦場の死者と昭和天皇 …… 山内武夫 86
—一九八九年二月二十四日にあたって—
戦争の空しさと青春 …… 上田璋一 105
—三百万の人々は誰のために死んだか—
「不戦」は私の遺言 …… 矢代健吉 110
—終戦も知らず、大部隊を襲撃—
何が何でも戦争だけはするな！ …… 吉岡康雄 114
私と戦争 …… 結城誠 117
—北支、ニューギニア、フィリピン—
まだ将校ズラさらすんか …… 白水英一郎 131
—ポツダム宣言、将校、兵—
ホロ島は恐怖の島だった …… 藤岡明義 133
—モロ族の蕃刀に銃剣の日本軍は完敗—
最大の戦争被害者は女性と子供たち …… 小林仁 143

次代を担う若い人々に ……田中時久
—広げたい「不戦・平和」の輪を—
疎開学童の米を盗む教頭 ……市川篤子
—悲惨だった私の戦時教師体験から—
私は広島の被爆兵 ……山本邦三 176
—八月六日午前八時十五分—
「総攻撃」は玉砕命令 ……大曲覚 186
—硫黄島の死闘—
ソロモン諸島で餓死した戦友たち ……山崎三朗 203
—海軍設営隊の運命に見る戦争の悲惨さ—
あとがき ……湊良蔵 217

『表紙写真』
焼け野原になった東京・下町。米軍が日本橋、小伝馬町上空から東南方面を空撮したもの。中央を横切るのは隅田川で、新大橋がかかっている。(一九四五年)